

「全鍍連」 2023年 11月号 巻頭言

全鍍連 情報・国際担当副会長 内田 悦美（光鍍金工業(株) 代表取締役社長）

「『こども霞が関見学デー』に参加して思ったこと

－こどもたちは未来の人材になってもらえるのか－」



皆様は『こども霞が関見学デー』をご存知でしょうか？

これは、東京霞が関にある国の中央官庁 28 府省庁等が毎年こどもたちの夏休み期間中に開催するもので、名前の通り、こどもたちが自分の興味のある各省庁を見学して回れるイベントです。省庁ごとに業務説明や職場見学の他、関連業界団体の紹介、さまざまな体験コーナーなど、それぞれ趣向を凝らした展示を行い、こどもたちは各種イベントを楽しみながら、普段は立ち入ることのできない国の中枢機関を見学してまわれる貴重な機会でもあります。

「親子のふれあいを深め、こどもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、政府の施策に対する理解を深めてもらうこと」（内閣府 HP より）を目的として、本年も 8 月 2 日（水）～3 日（木）の二日間にわたり開催されました。

全国鍍金工業組合連合会（以下、全鍍連）も情報国際委員会が中心となり、経済産業省内のイベントに 2 日（水）一日のみですが出展いたしました。金めっきの実体験コーナーを中心に、めっき業に関するパネル展示やスマホ部品などのめっき製品を展示して、こどもたちに「めっきとは」を広く紹介いたしました。金めっきの実体験コーナーでは、無毒の金めっき工程とオリジナル製作した全鍍連メダルを用意し、こどもたちに実際に自分の手で金めっき作業を行ってもらいました。銀色のメダルが少しずつ金色に変わってゆくさまを目の前で見ると、こどもたちは不思議な手品でも見るかのように、とても楽しそうに興味深そうに現象を見つめている姿が印象的でした。少なくともこの瞬間は、こどもたちは「めっきは面白い」と感じてくれていたはずで

この様子をそばで見ていることは、めっきは面白いと今日目を輝かせていたこどもたちが、そのまま将来めっき業界を担う人材になってくれたらよいのに、という短絡的で純粋な願いでした。突拍子もなく出てきた思いですが、昨今の少子化問題を考えると、少しの光にも希望を見出したい気持ちです。日本は少子化が深刻になり、どの業界でも人材獲得が大変に難しい現状にあります。これからはさらに厳しくなっていくでしょう。その中で、こどもたちから職業としてめっき業が選ばれてゆくにはどうしたらよいのか。何が決め手となるのか。成長してゆくにつれ、収入を中心とした経済的なこと、社会環境など、おとなとしての選択要因も増えてくるとは思います。しかし、自分の好きなこと、社会に役立つと感じたことを仕事として選ぶという純粋な動機も大切なはずで

めっきが面白いこと、あらゆる分野で役立っていて、必要不可欠な加工技術であることは、めっき業界に関わる人ならば当たり前のように知っています。しかし残念ながら未だ一般的には、その重要性が十分に知られているとは言えません。

今回の『こども霞が関見学デー』出展では、約 300 人のこどもたちに、めっきについて知ってもらうことができました。今よりもっと広く、もっと深くめっきについて知ってもらえるように、今回のようなめっきの魅力を発信する活動を続け、そして未来のめっき業界を担ってもらえるこどもたちが少しでも増えることを願ってやみません。